

秋と散歩

萩原朔太郎

青空文庫

四季を通じて、私は秋という季節が一番好きである。もつともこれは、たいていの人に通の好みであろう。元来日本という国は、氣候的にあまり住みよい国ではない。夏は湿氣が多く、蒸暑いことで世界無比といわれているし、春は空が低く憂鬱であり、冬は紙の家の設備に対して、寒さがすこしひどすぎる。（しかもその紙の家でなければ、夏の暑さがしのげないのだ。）日本の氣候では、ただ秋だけが快適であり、よく人間の生活環境に適している。

だが私が秋を好むのは、こうした一般的の理由以外に、特殊な個人的の意味もあるのだ。というのは、秋が戸外の散歩に適して

いるからである。元来、私は甚だ趣味や道楽のない人間である。
釣魚とか、ゴルフとか、美術品の蒐集などという趣味娯楽は、
私の全く知らないところである。碁、将棋の類は好きであるが、
友人との交際がない私は、めったに手合せする相手がないので、
結局それもしないじまいでいる次第だ。旅行ということも、私は
殆どしたことがない。嫌いというわけではないが、荷造りや旅費
の計算が面倒であり、それに宿屋に泊ることが厭だからだ。こう
した私の性癖を知ってる人は、私が毎日家の中で、為すこともな
い退屈の時間を殺すために、雑誌でもよんでごろごろしているの
だろうと想像している。しかるに実際は大ちがいで、私は書き物
をする時の外、殆ど半日も家の中にいたことがない。どうするか

といえば、野良犬^{のらいぬ}みたいに終日戸外をほつき廻っているのである。そしてこれが、私の唯一の「娯楽」でもあり、「消閑法」でもあるのである。つまり私が秋の季節を好むのは、戸外生活をするルンペンたちが、それを好むのと同じ理由によるのである。

前に私は「散歩」という字を使っているが、私の場合のは少しこの言葉に適合しない。いわんや近頃流行のハイキングなんかという、颯^{さつ}爽^{そう}たる風情^{ふぜい}の歩き様をするのではない。多くの場合、私は行く先の目的もなく方角もなく、失神者のようにうろうろと歩き廻っているのである。そこで「漫步」という語がいちばん適切にしているのだけでも、私の場合は瞑^{めい}想^{そう}に耽^{ふけ}り続けているのであるから、かりに言葉があつたら「瞑歩」という字を使いたい

と思うのである。

私はどんな所でも歩き廻る。だがたいていの場合、市中の賑にぎやかな雑沓ざつとうの中を歩いている。少し歩き疲れた時は、どこでもベンチを探して腰をかける。この目的には、公園と停車場とがいちばん好い。特に停車場の待合室は好い。単に休息するばかりでなく、そこに旅客や群集を見ていることが楽しみなのだ。時として私は、単にその楽しみだけで停車場へ行き、三時間もぼんやり坐っていることがある。それが自分の家では、一時間も退屈でいることが出来ないのだ。ポオの或る小説の中に、終日群集の中を歩き廻ることのほか、心の落着きを得られない不幸な男の話が出ているが、私にはその心理がよく解るように思われる。私の故郷

の町にいた竹という乞食こじきは、実家が相当な暮しをしている農家のひとりひとりむすこ息子でありながら、家を飛び出して乞食をしている。巡査が捕えて田舎いなかの家に送り帰すと、すぐまた逃げて町へ帰り、終日賑やかな往来を歩いているのである。

秋の日の晴れ渡った空を見ると、私の心に不思議なノスタルジアが起つて来る。何処どことも知れず、見知らぬ町へ旅を試みたくないのである。しかし前にいう通り、私は汽車の時間表を調べたり、荷物を造ったりすることが出来ないのです、いつも旅への誘いが、心のイメージの中で消えてしまう。だが時としては、そうした面倒のない手軽の旅に出かけて行く。即ち東京地図を懐中にし
て、本所ほんじょ深川の知らない町や、浅草、麻布あざぶ、赤坂などの隠れた

裏町を探して歩く。特に武蔵野^{むさしの}の平野を縦横に貫通している、様々な私設線の電車に乗って、沿線の新開町を見に行くのが、不思議に物珍らしく楽しみである。碑文谷^{ひもんや}、武蔵小山^{こやま}、戸越銀座^{とごし}など、見たことも聞いたこともない名前の町が、広漠たる野原の真中に実在して、夢に見る竜宮城のように雑沓している。開店広告の赤い旗が、店々の前にひるがえり、チンドン楽隊の鳴らす響が、秋空に高く聴^{きこ}えているのである。

家を好まない私。戸外の漫歩生活ばかりをする私は、生れつき浮浪人のルンペン性があるのか知れない。しかし実際は、一人で自由にいることを愛するところの、私の孤独癖がさせるのである。なぜなら人は、戸外にいる時だけが実際に自由であるから。

青空文庫情報

底本：「猫町 他十七篇」岩波文庫、岩波書店

1995（平成7）年5月16日第1刷発行

底本の親本：「萩原朔太郎全集 第九卷」筑摩書房

1976（昭和51）年5月25日

入力：大野晋

校正：鈴木厚司

2001年10月11日公開

2016年1月17日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

秋と漫歩

萩原朔太郎

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>